



● 青山 英孝



「ココを割って、ここを見なきゃ！」

枝だけでなく幹にも実のなる風変わりなカカオ。堅い殻の内側から甘く白い果肉が顔を出す。発酵した種子は魅惑の香りを漂わせ、やがて世界に旅立っていく…。



「DOOR OF NO RETURN」を背後に願うこと」

有名な扉の外は砂浜が迫っていた。非人道的な行為を見続けた生き証人として、再び「黒い積荷」を送り出すことのないよう強く平和を願う。穏やかな海原が続きますように…。

● 板倉 めぐみ



「アクラ日本語補習校で集合写真」

ガーナと日本を知る子どもたち。みんなの目にはどんな風に映っているのかな？そして、ガーナで家族と共に暮らす、日本人のお母さんとお父さん。みんなの力で学校がつけられていた。



「大切な水」

水が通っていない村で暮らす子どもたち。洗濯をするとき、体を洗うとき、ごはんを食べるとき、すべてこの水を使っているよ。

● 伊藤 樹李



「ぼくの夢、紙飛行機に乗せて…」

銀行員、エンジニアなど笑顔で夢を覚えてくれたガーナの子どもたち。交流で一緒に作った紙飛行機に乗せて…みんなの夢が叶いますように！



「お土産屋さんにて、ひと時の交流」

値切り交渉の末、太鼓を購入。その後、お土産屋さんのお兄さんと一緒に奏でたガーナのリズム。楽しいひと時はプライスレス！ありがとう。



ガーナ現地研修で印象に残った2枚の写真集 2/4

● 加藤 未来



「青年海外協力隊の輝き…パイナップル農園で、支援をする坂田さん」
青年海外協力隊の人は、異国の地で、こんなにも輝いて活躍していることを多くの人に知ってもらいたい。



「国境なき仲…コミュニティ開発活動の見学で親しくなった子」
英語が得意ではないし、年齢も国も違うけれど、繋がることができると実感した。

● 高井 季代子



「“Time is money?”ガーナのお金」
このことわざは、ガーナには馴染まない。40年後はどうだろう。バランスよく経済発展を実現し、その恩恵が全土にいきわたることを願う。お金があることが人にとって幸せとは限らないけれど。



「The Ghanaian Sumo Wrestlers」
初めての学校訪問での相撲交流。不安だったけれど、女の子のこの真剣な表情。観衆も大いに盛り上がった。スポーツは言葉の壁を超える。将来、ガーナ出身レスラー（行司）が出るかもしれない。

● 高井 菜穂子



「パイナップル丸かじり！甘い！！」
パイナップル農家で食べたパイナップルが、とても甘くて、丸かじり出来るほど芯が柔らかいパイナップルだった。日本に輸出出来たらと思ったが、輸出先としては日本は遠く、真空パックなどの加工をすればと考えても、加工の技術や費用が無く…。ガーナのおいしいパイナップルから農家の抱える問題について考えさせられた。



「編み込みヘアー」
アフリカ系の女性の縮毛を生かした独特のヘアースタイルである編み込みヘアー。ガーナでも多くの女性が、このヘアースタイルにしていた。ガーナも、今後、単なる欧米化ではなく、この編み込みヘアーのように、国の文化や特性の生かされる発展をしていく道が開かれると良いなと思った。



● 野口 哲平



「ガーナと日本の架け橋…野口研究所のソーラーパネルプロジェクト」

ガーナと日本の技術者によって成立した野口研究所の太陽光パネルのプロジェクトである。ガーナで仕事をする日本の技術者の苦勞、ガーナ人の仕事に対する気質が聞き取ることができた。



「これがキャッサバだ…エサーチレの農場の作物を見学」

キャッサバは、教科書に掲載されているメジャーな作物だ。しかし、その味、重さ、作る環境を体感することはできない。この研修はそれを感じることができる。粉っぽいイモのような味で、これをすりつぶして食べる。なるほど。

● 藤井 健太郎



「カカオの小さな実」

カカオは、木の幹から次々と花を咲かせる。そして実がなり、カカオを収穫する。一つの実の中には、約 40~50 のカカオが詰まっている。この小さな実はガーナの宝であり、人々の希望だ。“Ghana is Coco Coco is Ghana”である。



「青年海外協力隊と子どもたち」

アカチにある Avenorpeme Zion 小学校。緑のグラウンドが広がり、周りをとうもうこし畑に囲まれる。まるで映画「フィールドオブドリームス」を思わせる場所だ。そんな中を、女性の青年海外協力隊と子どもたちが清々しく駆けていった。

● 山口 貴史



「笑顔で遊ぶ子どもたち／現地の学校に関わる青年海外協力隊の想い」

青年海外協力隊と児童が元気いっぱい遊ぶ姿を現した写真である。子どもたちの笑顔を少しでも引き出そうと、夢に少しでも近づけるようにと、子どもたちと同じ気持ちになって活動する姿がとても印象的であった。



「よりよいパートナーシップ／協力して高め合う日本とガーナの研究者たち」

器材や資金援助だけではなく、研究者同士が技術や知識を高め合いながら、互いの国のために協力して働く姿を写した写真である。特に、若い研修者の意欲が高く、率先して留学や語学勉強などする姿勢がとても印象的であった。



● 山田 真沙美



「さよなら、そしてありがとう」

日本でもよくやるのですが、言葉だけよりもなぜ心が通じ合う気がします。ここでも温かい気持ちでさよならができました。



「子どもために、未来のために」

日本とガーナの教員が共に教育について考える。教具がなかったら…、親の理解が得られなかったら…、共に知恵を出し合い、語り合い、考える機会が増え、改善されることを願って。



集合写真

上：青年海外協力隊（コミュニティ開発）活動（山口隊員、活動地のコミュニティの人々と一緒に）

下：青年海外協力隊（小学校教諭）活動見学（松原隊員、アボソ・AME・ジョン小学校の教員・子ども達と一緒に）

